

Contents

- 02-05 商品ものがたり
コープのお店の地場野菜
- 06-07 そうなんや! 生協
京都生協の
「社会貢献活動助成金制度」の取り組み
- 08-09 食とくらしの安全・安心
・食の安全・安心
「食物アレルギーの危険性」
・くらしの安全・安心
「除菌や消毒をうたった商品」
～新型コロナウイルスに関連して～
- 10-11 information / ライフプラン川柳募集
- 12 秋のコープのまなびば♪のお知らせ /
「オリジナルエコバッグ」入荷しました!
- 13-15 読者投稿コーナー ほっとTIME
- 16 四季彩ごはん



▲今回取材した、田中農園のイチジクは「木成り完熟」。一般市場ではなかなかお目にかかれない逸品です



彩り野菜のパンキッシュ



北澤農園のミニトマト

▲約5,000本のミニトマト(アイコ)の苗をバックに さわやかな笑顔を見せる北澤さん



田中農園のイチジク

▲自慢のイチジクの良い出来具合にっこりする田中さん

商品ものがたり

畑育ちの「京の逸品」。



▲旬の野菜が並ぶ「地産地消コーナー」

店頭に並ぶ、色とりどりの旬の農産物。コープのお店では、地元生産者がつくる、栄養たっぷりでおいしさのギュッと詰まった農産物を取り扱う「地産地消コーナー」を展開しています。2013年にコープさがので始まり、今では全店に地場野菜のコーナーを常設。並ぶのは穫れたての新鮮な農産物ばかり。市場を介さずに、生産者が自らの手で店舗に直接納品しています。

これは、地元で穫れた農産物を地元で食べる「地産地消」の取り

組みのひとつ。地元の生産者を応援するとともに、穫れたての農産物を組合員へ届ける京都生協ならではの活動です。現在、「地産地消コーナー」に登録する生産者は220軒。京都生協の地産地消担当職員がそれぞれの産地に足を運び、栽培の様子を見聞きし、農業への想いを話合った人たちです。

今回は、組合員から“指名買い”されるほど人気がある生産者を紹介します。

※取材は8月初旬に行いました。

農業のあり方を考える 水耕栽培のミニトマト

城陽市の住宅地に建ち並ぶ三角屋根のビニールハウス。約2,000㎡の敷地に今春建設された、ミニトマトの水耕栽培用施設です。ハウスの主は北澤良祐さん。コープのお店で人気の高いミニトマト「京さんご」の生産者として知られています。

ハウスの中は、8月初めに定植したミニトマトの苗約5,000本がずらり。「品種は『アイコ』です。楕